

「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」 研修ホームページのご案内

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

Q & A

お知らせ

お問合せ

トップページ

概要

資料

予定・実績

領域別セッション

主催者・講師向け

かかりつけ医の動機づけ



多職種チームビルディングの促進

■ 概要 ■

- 本研修プログラムのねらい、特徴、構造、受講効果などの全体像について掲載しています。
- 研修運営ガイドに加え、開催例などを示していますので、研修の構想を練る材料としてください。
- 千葉県および国の事業と本研修会との関わりを示しています。

■ 資料 ■

- 研修で使用している資料をPDF形式でダウンロードできます。
- また各単元の動画へリンクできますので、研修内容が自習できるようになっています。

■ 予定・実績 ■

- 各地で予定している研修の日程・概要を掲載しています。
また同時に傍聴可能な地域については、本ページから傍聴申込を受け付けています。
- 既に開催された研修会の報告、本研修会に関わる学会発表、論文、講演会等の実績を掲載しています。

■ 領域別セッション ■

- 領域別セッションとは、基本研修内に含まれるテーマ別の単元（講義40分とグループワーク80分で構成）を指します。
- 地域のニーズに合わせてセッション間を入れ替えられるよう作成されています。
（がん緩和ケア、認知症、摂食嚥下・口腔ケア、栄養、リハビリテーション、医療処置等）

■ 主催者・講師向け ■ ※IDとPasswordの発行申請が必要です。

- 研修運営ガイド、研修資料の各種様式（Word、Power Point等）を入手することができ、研修運営を補助するコンテンツが入手できます。
- 他地域へ情報発信・共有するための「研修開催フォーム」を設置しています。

ホームページURL : <http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/kensyu/>

研修運営ガイドとは

■本研修会の目的と運営ガイドの位置づけ

本研修会は、①かかりつけ医の在宅医療参入の動機づけと②市町村を単位とする多職種によるチームビルディングの促進を目的としています。厚生労働省が在宅医療の推進及び在宅医療・介護の連携推進のために示している地域（市町村）の多職種を対象とした研修（右図）のモデルとなることを目指しています。

この運営ガイドは、より多くの地域で研修会を開催いただけるよう、国立長寿医療研究センター／東京大学高齢社会総合研究機構／公益社団法人日本医師会／厚生労働省の共同名義により、**研修の企画・運営の流れをチェックリスト形式**でまとめたものです。ぜひ研修の企画・運営の際にお役立てください。

在宅医療・介護の連携推進について(イメージ)

(参考) 想定される取組の例

- ①地域の医療・福祉資源の把握及び活用
 - ・地域の医療機関等の分布を把握し、地図又はリスト
- ②在宅医療・介護連携に関する会議への参加又は関係機関者が集まる会議を開催し、地域の在宅医療・介護に関する課題を共有する
- ③在宅医療・介護連携に関する研修の実施
 - ・グループワーク等の多職種参加型の研修の実施
 - ・主治医・副主治医制等のコーディネート
- ④24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築
- ⑤地域包括支援センター・介護支援専門員・介護サービス提供支援専門員からの在宅医療・介護に係る総合的な支援

出典：平成25年8月28日、厚生労働省第46回社会保障審議会介護保険部会資料より

多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業
25年度予算 100百万円

■本事業の目的

- 在宅医療においては、医師、歯科医師、薬剤師、リハビリ職種、ケアマネジャー、介護士などの医療福祉従事者がお互いの専門的な知識を活かしながらチームとなって患者・家族をサポートしていく体制を構築することが重要である
- 国が、都道府県リーダーに対して、在宅医療を担う多職種がチームとして協働するための講習を行う(都道府県リーダー研修)
- 都道府県リーダーが、地域リーダーに対して、各地域の実情やニーズにあった研修プログラムの策定を念頭に置いて講習を行う(地域リーダー研修)
- 地域リーダーは、各地域の実情や教育ニーズに合ったプログラムを策定し、それに沿って各市町村で地域の多職種への研修を行う。これを通して、患者が何知にいても医療と介護が連携したサポートを受けることができる体制構築を目指す

※WHO(世界保健機関)は、「多職種協働のためには、多職種の研修が必要である」とも提議している。(2002年)

出典：厚生労働省ホームページ「在宅医療・介護の推進について」より

■運営ガイドの内容

4か月前

- ☑運営の中心となる事務担当者の決定
- ☑郡市医師会の実質責任者の決定

3か月前

- ☑各職種団体への協力依頼
- ☑日程、会場、プログラム構成の決定
- ☑講師、司会の打診
- ☑受講者、傍聴者の募集および決定

2か月前

- ☑受講者のグループ分け
- ☑講師、司会者、実地研修指導者との事前打ち合わせ

1か月前

- ☑講義資料の完成、印刷
- ☑物品の準備

- ☑評価のための調査実施

チェックリストを
ひとつずつ進めていくことで
研修会の企画・運営が
できるようになっています

2週間前

研修
当日

効果
検証



[運営ガイドに関するお問い合わせ先]

東京大学高齢社会総合研究機構
在宅医療研修運営事務局
〒277-8589
千葉県柏市柏の葉5-1-5 第2総合研究棟110
TEL:04-7136-6676 FAX :04-7136-6677
Mail: homecare_info@iog.u-tokyo.ac.jp

在宅医療多職種研修会の モデル地域養成検討会 報告

東京大学高齢社会総合研究機構
辻 哲夫

(2014年3月20日 在宅医療推進会議)

概要

名称	在宅医療多職種研修会のモデル地域養成検討会
目的	自地域で開催すべき研修会の構成について具体的に検討を行い、各地から視察者が訪れるような研修会のモデル地域（仮）を生み出すこと
主催	国立長寿医療研究センター／東京大学高齢社会総合研究機構／東京大学医学部在宅医療学拠点
日程	1日目:平成26年2月8日（土） 14:00～18:30 2日目:平成26年2月9日（日） 9:00～12:30
会場	TKP大手町カンファレンスセンター

在宅医療多職種研修会の普及手順(案)

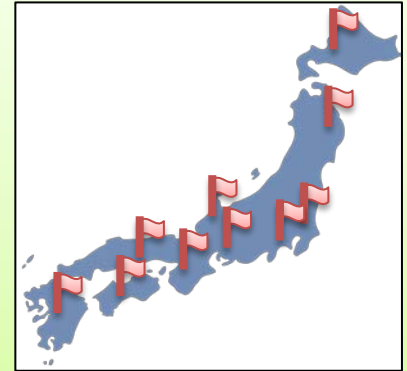
①全国への意識づけ

- 全国の市町村・地区医師会関係者等を召集した研修会の開催
- 市町村単位での開催をイメージした研修会の運営ガイドを提示



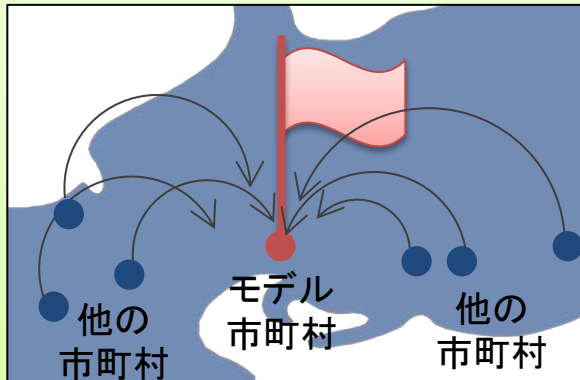
②研修会先進開催モデル地域の整備

- 地方毎(全国8~10ヶ所程度)に①の開催ガイドを踏まえた研修会の開催先進モデル地域「在宅医療多職種研修会モデル市町村(仮称)」を整備



③モデル研修会の傍聴

- 各市町村・地区医師会関係者等が先進地域の研修会を傍聴し、運営ノウハウを獲得



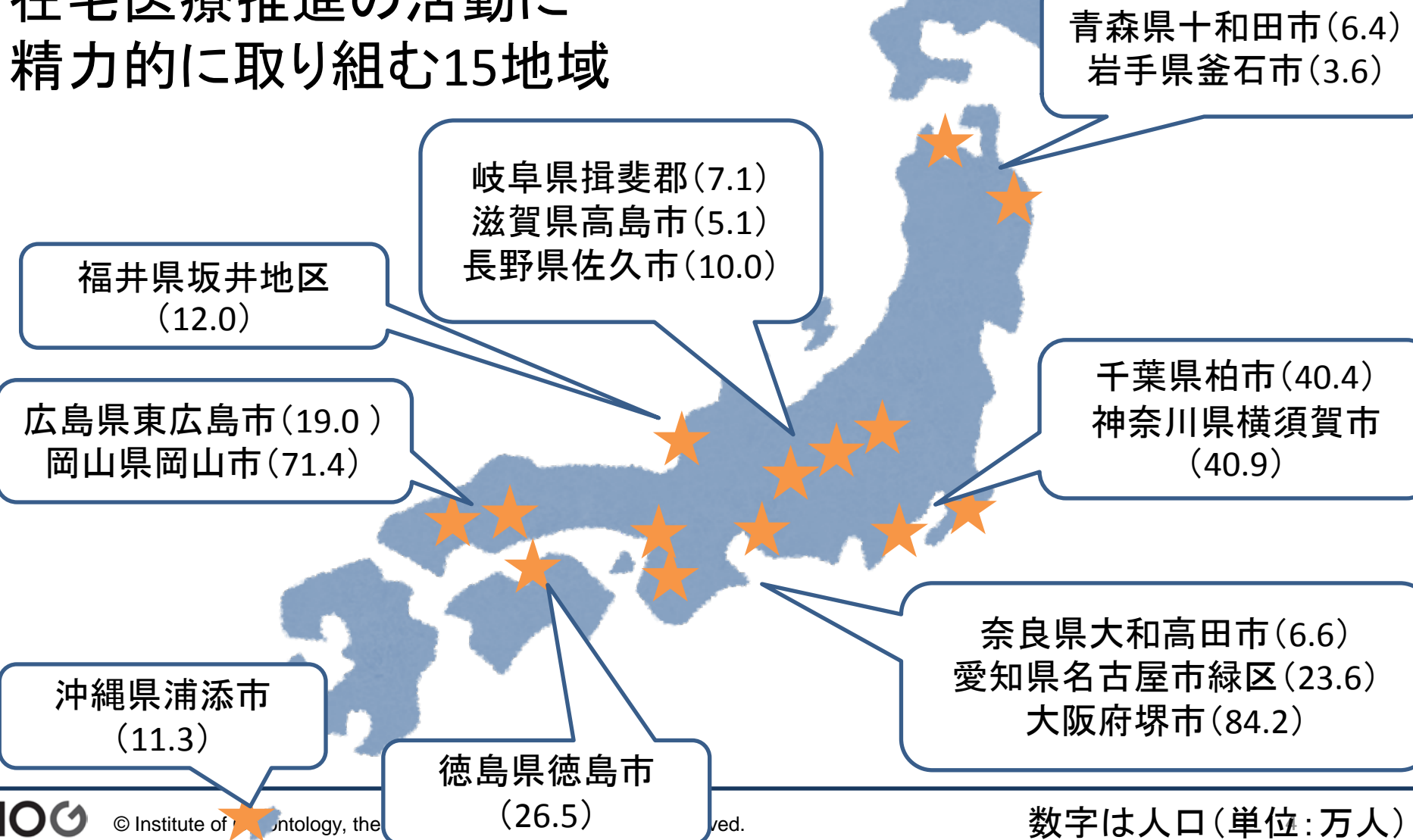
④市町村単位での研修会開催

- 各市町村が③の研修会を参考として市町村単位の研修会を開催(地域特性に合わせて適宜改変)



招集地域

在宅医療推進の活動に
精力的に取り組む15地域



参加者

- ①～③の方が全員参加できる地域を招集(原則)
- 全県的展開を含めたアドバイザーとして④の方も希望があれば参加



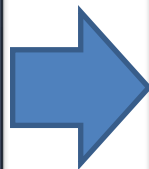
検討会の内容

① 冒頭主旨説明

② 地域単位の研修会開催例の紹介



③ 自地域紹介タイム



④ 多職種連携研修の意義と
ワークショップの構造

⑤ 研修会における実習運営

⑥ 研修会開催にこぎつけるまでの
地ならし・関係づくり



⑦ 各地域の実情に応じた
研修プログラムの提案・総括

当日の様子

朝日新聞
DIGITAL

都心積雪20センチ超 20年ぶり 東日本、9日も警戒

2014年2月9日00時52分

【動画】東京都心で20年ぶり大雪 銀座も真っ白＝竹谷俊之撮影



東京・新宿の繁華街では、路上の自転車のハンドルやサドルに雪が積もっていた＝8日午後、小川智撮影

急速に発達した低気圧の影響で8日、日本列島は広い範囲で強風を伴った雪が降り、平野部でもまとまった積雪となった。東京都心では20年ぶりに積雪が20センチを超えた。東日本では9日も雪が続く見通しで、気象庁は暴風雪や路面凍結、交通機関の遅れに注意するよう呼びかけている。

気象庁は8日午前、13年ぶりに東京23区に大雪警報を発表したほか、神奈川、千葉など各県に暴風雪や大雪警報を出した。

朝日新聞DIGITAL <http://www.asahi.com/articles/ASG285S3PG28UUPI001.html>

当日の様子



大阪府堺市研修プログラム案

【課題】

- 若手医師が在宅医療に参画できていない
- 医師会として若手医師を支える環境づくりが不十分
- 病院（急性期病院）の医師等とのビジョンの共有

【プログラム案】

（目的）5年後10年後20年後を担える人材の育成

（対象）病院も含む若手医師と多職種

※例として「せん妄対策プログラム」に若手医師（在宅・病院）に参加してもらう

※研修を実施していく前に・・・

- ①堺市全体でのビジョンの共有
- ②市町村の体制整備（4月から新組織）
- ③医師会の体制整備（在宅医療部門を作るべきか）

最終セッションで作成されたプログラム案の例： 横須賀市

横須賀の独自路線

- ▶ 座学は1日プログラム
 - ▶ →医師が参加しやすい、ハードルを下げる工夫
 - ▶ →他の多職種研修会やブロック会議で質を担保している
- ▶ 各職能団体はすぐに動いてくれる
- ▶ 多職種研修会に病院職員も入る
- ▶ 同行したメリットを当事者(同行研修者)に話してもらう
 - ▶ →同行研修の動機づけ
- ▶ 研修医／病院医師の在宅同行研修も予定している
- ▶ 医師、薬剤師同行も検討

受講後アンケート(抜粋)

- 地域で多職種連携研修あたりからできたらいい。(②医師会)
- 医師同士の同行研修は難しそうだが、多職種との同行は必要性を感じているので進めていきたい。(①市町村)
- 事務局運営方法の理解を深めることができた。(③その他)
- 行政のトップを巻き込む「しかけ」について様々なアイデアがもられた。医師会と上手くつながりながらゆさぶりをしていきたい。(①市町村)
- 他地域の状況を聞くことで、自地域の相対的な強み、弱みを考える契機になった。(④都道府県)
- 現実に実現可能な研修プログラムを作成できた。来年度実現に向けて取り組みたい。(③その他)

今後の展開(予定)

- 各地域の研修開催支援(主に事務局支援)

福井県坂井地区(2/20)、千葉県柏市(2/23、3/16)、横須賀市(3/9)、沖縄県浦添市(3/9)、大阪府堺市(3/15)、名古屋市緑区(3/16)

- 各地域における開催効果の評価

- 各地域の担当者による
メーリングリスト設置
研修開催状況の情報共有、意見交換

- 都道府県単位の多職
種研修戦略の検討

